

令和8年3月10日

【阿部室長】 それでは定刻になりましたので、社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会第40回技術部会を開催いたします。

本日はお忙しい中、御参加いただき、誠にありがとうございます。私、本日の司会を務めさせていただきます、国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室長の阿部でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日は、対面とオンライン併用による開催となります。会議中に万が一、接続不良等ございましたら、事前にお伝えしております連絡先、またはT e a m s のチャット機能で御連絡ください。御発言を希望される際には、オンライン出席の皆様は、T e a m s の「手を挙げる」機能もしくはチャット機能を御利用願います。また、御発言の前にお名前を述べてから、やや大きめの声でゆっくりと御発言願います。なお、オンライン出席の皆様につきましては、発言時のみマイクとカメラをオンにいただき、それ以外はオフにしてくださいよう御協力をお願いいたします。

本日の会合は一般公開で開催させていただいており、議事録も公表とさせていただきますので、あらかじめ御了承いただければと存じます。

次に、本日の資料について確認させていただきます。会場にて御出席の委員の皆様におかれましては、机上のタブレット端末で資料を御覧いただけます。議事次第に資料のリストを記載しておりますので、過不足等ございましたら事務局までお申しつけください。

なお、本日は本部会の委員総数19名中16名に御出席いただいております。規定の定足数を満たしていることを御報告申し上げます。

それでは、会議の開始に先立ちまして、技監の廣瀬より御挨拶を申し上げます。廣瀬技監、よろしくお願いたします。

【廣瀬技監】 委員の皆様には、年度末のお忙しいところお集まりいただきまして、あるいはウェブで参加いただきまして、誠にありがとうございます。

今、国会の論戦のさなかでございますけれども、高市政権、高市内閣では強い経済を目指して危機管理投資、それから成長投資、17分野、造船や、港湾ロジスティクス、国土強靱化等がございますが、その17分野でそういう投資をしっかりとしていこうということ

が要望されているところでございます。2月20日の施政方針演説でも高市内閣総理大臣から、強い経済の基盤となるのは優れた科学技術力との考えの下、AI、先端ロボットなど、成長が見込まれ、かつ難易度が高い技術領域における技術開発について投資を強力に促進していくというような方針が示されております。

それに先立ちまして2月18日に国土交通省の令和8年度予算概要を公表させていただいたところでございますけれども、その中では国土交通分野のデジタルトランスフォーメーションや技術開発の推進として約130億の予算を計上させていただいて、技術力の強化を努めてまいりたいと思っております。

この技術部会でもAIや、ロボット等についても熱心な御議論いただいております。昨年12月のこの第39回の技術部会におきまして、原案について委員の皆様から御意見を頂いた上で、パブリックコメントも行わせて広く意見を頂戴したということになってございます。本日、そのような話につきまして御意見、パブリックコメントを頂いた御意見も紹介させていただきながら、新しい国土交通省の技術基本計画案について御説明をさせていただきます。改めて委員の皆様から御意見を頂戴したいと思います。

本日も限られた時間にはなりますけれども、委員の皆様の忌憚ない御意見を頂くことをお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

【阿部室長】 ありがとうございます。

それでは、小澤部会長より御挨拶を頂きます。小澤部会長、よろしくお願いいたします。

【小澤部会長】 本部会の部会長を仰せつかっております、政策研究大学院大学の小澤です。

これまでほぼ1年ぐらいかけてこの技術基本計画の内容について御審議をいただいているところですが、本日、取りまとめをさせていただければというふうに考えております。

今のAI、先端的な科学技術の発展は目覚ましいものがあります。我々を取り巻く社会のほうの変化も非常に変化が加速していると。これに対して我々、そこに対して提供するインフラサービスをいかにニーズに合ったものに変えていくかと、それを支える産業、あるいは組織をそれに応えられるようにいかに進化させていけるか、それが我々問われているところかと思っております。

それを支える技術を、今後、その技術の開発から現場で実装する、さらにそれを市場で拡大した後に国内にとどまらず、海外にも展開していくと、このスピードを加速するためにどうすればいいかということで御議論いただいていたのかなというふうに思います。

この第6期の技術基本計画の中では個別のそれぞれの分野でどういう技術が必要かと、どういう技術開発を進めていく必要があるかということだけではなくて、この技術を活用する速度をいかに上げていくかと、そのためのシステムとして、仕組みとしてここではイノベーション・エコシステムと呼んでいます。これをいかに加速するために活用していけるかということをごの中に盛り込んでいただけたかなというふうに思っております。

今後、この計画を実際に実行するプロセスの中では、このエコシステムを上手に活用することでいかに目標とする技術開発あるいは社会実装、あるいはそれによってインフラサービスの高度化というものがいかにちゃんと実現していけるかということもしっかり今後のこの計画の実行の中で確認していけるように皆さんとともに見守っていきたくて考えております。

本日は限られた時間、残りの時間の中でそういう取組を進めるに当たってこの計画が皆さんの期待に応えるものであるかどうかということご忌憚のない御意見を本日もよろしくごお願い申し上げて、冒頭の御挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

【阿部室長】 ありがとうございます。

報道関係の皆様の写真撮影はここまでとさせていただきます。また、時間の都合上、本日御出席の委員の皆様の御紹介は出席者名簿で代えさせていただきます。

なお、山本委員におかれましてはオンラインで遅れて御参加いただく旨、御連絡を頂いております。

国土交通省関係者につきましても、一部オンラインで出席していることを御報告させていただきます。

それでは、これより議事に入らせていただきます。以降の進行につきましては小澤部会長にお願いしたいと存じますので、どうぞよろしくご願いいたします。

【小澤部会長】 それでは、最初の議事ですが、これまでパブリックコメントも含めていろいろな方から御意見を頂いて取りまとめをいただいております。「新たな技術基本計画案について」ということで、事務局から御説明をお願いいたします。

【大儀分析官】 技術調査課の大儀でございます。着座にて失礼いたします。

お手元の資料1-1、それと1-2、また、お手元に計画案の修正経緯が入ったものがございますが、こちらを用いまして前回部会でお示した原案からの変更点を中心に御説明をさせていただきます。

まず、資料1-1を御覧ください。前回部会の振り返りでございますが、前回部会では新たな計画の原案について御意見を頂いたところでございます。まず、1ポツのインフラの重要性についてでございます。「日本の将来を支えるのは社会基盤であり、国土交通省が担っているということを表明してほしい」などの御意見を頂いたところでございます。こちらの御意見につきましては、修正入りの計画案の4ページの31行目でございますが、「国土交通分野が担う社会基盤とは、国民の安全・安心と経済成長を支える根幹であり」というような形で入れさせていただいてございます。また、計画案の21ページの7行目でございますが、「我が国の経済的成長と国民生活の安定には、強靱な社会基盤が不可欠である」、云々、「インフラは、産業活動や生活活動を支える根幹であり」、「国土交通省は、これら社会基盤の整備・維持管理等を通じて、我が国の経済安全保障を支える責務を果たす」との文章を追記しています。

次に資料の1-1の2ポツのAIへの留意についてでございます。「更なる高みを目指す中での懸念として、AIを含む技術を安心して使う仕組みが必要である」、また、「AIが不得意なところを考えたときに、責任の引受け方を考えることが、人口減少下の国土交通政策を考える上で非常に重要である」といった御意見を頂いたところです。こちらの御意見につきましては、計画案の26行目でございますが、「本計画はAIを含む新たな科学技術の活用を強力に推進するものであるが、技術の限界を正しく認識し、意思決定の最終責任は人が負うことを忘れてはならない」と追記しております。

また、50ページの9行目ですが、『人工知能関連技術の研究開発及び活用の適正性確保に関する指針』に基づき、人間中心の原則の下」、云々、「意思決定の最終責任は人間にあることに留意する必要がある」と追記しております。

また、資料1-1の3ページですが、3ポツの人材についてでございますが、「熟練者が持つ暗黙知を形式知化して次世代へ継承するための手段として、どのように位置づけるのか」、また、「市町村の人材育成も明確に位置づけてほしい」、「全体として、地域分布、地域バランスをどうするかが非常に重要」、また、「国を守る社会資本整備を担う人材に、誇りや愛情をどう思ってもらえるかが重要」との御意見を頂いているところでございます。こちらの御意見につきましては、計画案の4ページの32行目ですが、「社会基盤を支える人材は他のいかなる資源にも代えがたいものである。人口減少や東京一極集中が続く中、全ての地域における技術力の維持・強化は国家的課題である」と追記しております。また、計画案24ページの11行目ですが、「国土交通分野の仕事とは、国民の生命・財産を守る

もの、経済発展の礎であり、地域の未来を創る使命である。その使命を担う人材は何者にも代えがたい財産であり、この仕事に誇りと愛着を持ってもらうことが、持続可能な日本社会を形づくっていく」と追記してございます。また、43ページでございますが、28行目に「国土交通省の職員のみならず地方公共団体も含めた」と追記しているのとともに、33行目ですが、「人材不足が懸念される中」、云々、「これまでの先人により蓄積されたアナログデータとAI等の最新技術を結びつけ、技術的な判断を支援するシステムなどを産学官で構築し、技術者を本来の創造的な業務に従事させていく」と追記しています。

また、資料1-1の4ポツの意思決定プロセスについてでございますが、「イノベーション・エコシステムが技術を生み出し、使われ続ける仕組みと捉えた場合に、今の既存のインフラを補修・補強するための設計条件や設計オプションの選択にどう反映させるかが重要」、また、「限られた予算制約の中で優先順位づけや投資判断につなげていくのはAIやデジタル技術だけでは解決せず、最後の意思決定をする重要性が増す」との御意見を頂いております。こちらの御意見につきましては、先ほどのAIの留意についてでも御説明いたしましたが、4ページの26行目ですが、「本計画は、AIを含む新たな科学技術の活用を強力に推進するものであるが、技術の限界を正しく認識し、意思決定の最終責任は人が負うことを忘れてはならない」、また、「技術の限界や外部不確実性を踏まえ、技術の恩恵を最大化しつつ、技術では代替できない価値判断を人間が担う国土交通行政を確立する」との追記をしております。また、計画案の64ページの24行目ですが、インフラメンテナンスのところですが、「インフラのマネジメントを効率的・効果的に進めるためには」、云々、「新技術の導入、維持管理の容易な構造の採用等を通じたメリハリのある維持管理をしていく必要性が高まっている」と追記しています。

続きまして、資料1-2を御覧ください。前回の部会以降、1月7日から1月30日にかけてパブリックコメントで広く一般の国民の皆様方、21の方々から46件の御意見を頂いたところでございます。頂いた御意見のうち原案を修正した主な御意見を中心に御説明をさせていただきます。

まず、資料1-2の1ページ目の2つ目の御意見でございます。「政策テーマに関連する民間特許や知的財産の存在を俯瞰的に可視化する仕組みを国が整備すべき」との御意見については、技術開発プラットフォームの概念に知財権の情報も含むようにということで、計画案30ページの7行目ですが、「研究開発公募・進捗情報や知的資産の取得状況等を一元的に発信するプラットフォームの整備」と追記をしております。また、資料1-2の1ペ

ページの3つ目の御意見ですが、「民間の技術開発費の確保のため、入札最低価格の引上げをすべきである」との趣旨の御意見に対しましては、民間技術開発への投資元本を確保するためには民間の利益確保も重要との趣旨と理解をいたしまして、計画案の36ページの1行目ですが、「民間の技術開発への投資元本を確保するためには、民間の利益確保も重要であり」と追記をしています。また、資料1-2の1ページ目の最後の御意見ですが、AIの活用について御意見頂いてございまして、こちらにつきましては、前回部会での委員の御指摘もございまして追記しているところです。

続きまして、資料1-2の3ページ目の3つ目の御意見ですが、「粘り強い河川堤防技術の導入・拡大を計画に明確に位置づけていただきたい」との趣旨の御意見ですが、流域治水の加速化・深化に向けた取組の一環ということで、計画案61ページの6行目ですが、「粘り強い河川堤防に関する技術の研究開発を行う」と追記しております。また、資料1-2の4ページの4つ目の御意見ですが、「GXスチールについては、建築物LCA制度における定量評価の対象とし、その利用拡大につなげることを明示いただきたい」との御意見ですが、こちらにつきましては1月に公表いたしました「建築物のライフサイクルカーボンの削減に向けた制度のあり方中間取りまとめ」に定量的なGX価値を別記表示することも考えられるとされておまして、今後検討を進めるということから、計画案の69ページの4行目ですが、「ライフサイクルカーボン削減に取り組んだ事業者の努力が市場で適切に評価される環境整備」に「建材、設備業者も含めた」と追記しています。

資料1-2の5ページの最後の御意見ですが、「国際展開に耐震性能に優れた建設技術・建設資材を追加することを検討いただきたい」との御意見に対しましては、計画案82ページの20行目になりますが、「住宅・建築分野においては、耐震や省エネ性能等、我が国の優れた技術や制度について、各国政府への知見の提供を通し、海外への展開を進めている」と追記をしております。

資料1-1、資料1-2で御説明させていただいた修正以外にも、部会における委員の御意見なども踏まえまして、追記や表現の適正化を行っているところであり、計画案に見え消しという形でお示しをさせていただいております。

続きまして、資料3を御覧ください。技術基本計画のパンフレットについて御紹介をさせていただきます。

技術基本計画の趣旨をより分かりやすくPRできるようにということでパンフレットを作成しております。パンフレットでは1枚はぐっていただきますと、2ページのところに

技術基本計画の位置づけ、また、3ページのところにはこの本計画の目標であるイノベーション・エコシステムによる好循環確立についてお示しをさせていただいた上で、4ページになりますが、イノベーション・エコシステムの3つの柱、研究開発の強化、社会実装の加速化、人材育成・確保についてそれぞれのポイントを分かりやすく説明させていただいてございます。5ページには研究開発の強化では、プラットフォームの構築によりまして、多様な主体が出会い、連携する機会を創出すること、また、6ページには社会実装の加速化でございますが、国が率先して新技術を導入しながら、既存の技術も見直すこと、また、地方公共団体などの取組も支援していくことを書かせていただいています。また、7ページでは、人材育成確保ということで、意欲ある技術者の活躍が正当に評価されることの重要性和好事例の全国展開について説明しております。また、8ページから12ページにかけては、技術政策の事例を様々な主体が連携しながら取り組まれているものについて8つ、紹介をさせていただいております。

このパンフレットは、今後計画を公表するときに合わせまして、広く一般にお知らせするとともに、地方公共団体や研究機関をはじめとしたイノベーション・エコシステムにおける多様な組織の方々に周知をしていく予定としております。

計画案についての御説明は以上でございます。

【小澤部会長】 ありがとうございます。

前回から修正したポイント、それからPRのために作っていただいている資料も含めて御紹介をいただいたところです。

それでは、委員の皆様方から改めて計画案、それからPRの資料も含めて御意見、御提案、感想も含めて頂ければと思います。いかがでしょうか。オンラインで御参加の方は挙手をお願いできればと思います。こちら側の方はいかがですか。

【秋山委員】 御説明、ありがとうございます。

この第6期国土交通省技術基本計画を読ませていただいて、あまりこのような行政文書を読んで、わくわくすることは少ないのですが、今回の内容はすごく明るい未来を感じさせる内容になっていて、大変良いと思いました。特にイノベーション・エコシステムのような形の言葉が出てきて、国土交通省、公共事業ならではの、公共事業の中で行うイノベーションを行うことの難しさ、それを踏まえた新しい仕組みをつくれているところに可能性を感じました。

ただ、1点、ちょっと思うところは、やはりこれを進めていくに当たっては、先ほどの

冒頭の御挨拶のところでもありましたが、やはり人だと思っんです。それをどうやって育てていくのかというところが非常に大事になってくるんだと思います。実は、今回の資料も見ていて、なるほどと思ったのは前期の第5期においても、実は技術を支える人材育成に関する文言は相当に入っていて、その重要性はあの時にも認めているのだけれども、では、前期から今回になって例えば、自分の周りで見ている中で、そのような人材が本当に育ってきているのか、と疑問に感じます。今回もこのイノベーション・エコシステムという仕組みができて、その中で人を動かしていく、そういうので社会実装を図っていく、国際展開もしていくというのは大変いいと思うのですが、ぜひ、どのようにそれに合う、それを進めていく人を育てていくのか、そのプログラムなり、仕組みなり、この部分がないと、やはりまた、1期前と同じような形にならないだろうかというところが少し気になりました。

ただ、全体としては大変にワクワクする内容で、すばらしい取りまとめになっているかと思ひます。以上です。

【小澤部会長】 どうもありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

【小林委員】 おまとめ、どうもありがとうございました。観光分野のほうから幾つかコメントをさせていただきます。

社会的背景の部分、そして個別分野の部分において、観光で今、課題になっていること、そして推進していることにつきまして記載いただきまして、今回、観光分野から初めての参加ということになりますけれども、本当に感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

実は観光研究分野でもツーリズム・エコシステムですとか、観光地エコシステムという概念は非常に活発に議論されているところがございます。ですので、このたびの計画につきましても、観光分野においても親和性の高い計画になったのではないかと、僭越ながら感じているところがございます。

以上、感想でございますが、1点、もし細かい点でまだ修正が可能であれば、計画の9ページにインバウンドのことを記載いただいておりますけれども、外国人観光客数、あるいは消費額が、最初のほうに議論した際には2024年のデータしか出ていなかったところですが、2025年のデータが出ておまして、PRの資料のほうには最新データが記載されておりますけれども、そこを2025年のデータ、4,268万人と9.5兆円になったというところ、修正いただくといいかなというふうに思ひました。

あと、蛇足ではあるのですが、データ活用のところで私も研究分野ではありますので、一言最後、AIのことを今回記述いただきましたけれども、御意見を反映いただいたところの中で最終決定を「人」がするという言及があったと思いますが、言葉の揺れとしてあまり気にするか気にしないか、御判断いただければと思いますけれども、「人」が最終決定するのか、「人間」が決めるのか、人と人間という表現を書き分けるか、分けないかという、気にする場合と気にしない場合がありますので、そこも必要であれば、御検討いただければというふうに思います。ページ数で申し上げますと、4ページのところは下の27行目です。意思決定の最終責任は「人」が負うというふうになっていますけれども、50ページの14行目は「人間」というふうになっています。そこは。もし気にされる場合には検討いただいて、気にしなければ、意味は一緒ということでもいいと思うのですが。すみません、細かいことで。

以上です。ありがとうございました。

【小澤部会長】 細かいところまで見ていただきまして、ありがとうございます。まだ間に合うんですね、きっと。

【大儀分析官】 まだ間に合います。

【小澤部会長】 最終として出すまでに気がついたところは直していただければと思います。

【秋山委員】 ありがとうございました。

【永谷委員】 筑波大学の永谷です。とても大変な作業を御苦労様でした。

非常に分かりやすくなっていると思います。気になった点ですが、ここ最近、フィジカルAIという言葉が非常によく見られるようになりましたが、このタイミングで、フィジカルAIが入っていないののかなというのが、気になりました。キーワードとしてどこかにそっと入れておくか、むしろ入れないかというのは、御判断をお任せします。しょうもないコメントですが、よろしく願います。

【小澤部会長】 ありがとうございます。

【大儀分析官】 計画案でもフィジカルAIというワーディングは入っておりますが、ただ、先生がおっしゃる今後取り組むべきということで御指摘に沿った内容になっているかは再度確認したいと思います。例えば、36ページの22行目であったり、50ページの36行目だったり、あとは52ページ目の20行目だったり、ワーディングとしては入っているんですが、御指摘のような趣旨なのはちょっと再度確認をしたいと思います。

【小澤部会長】 ありがとうございます。お願いします。

【若林委員】 神戸大学の若林です。

非常に広い分野に関する内容をまとめていただきまして、大変だったことと思います。ありがとうございます。それから、前回発言したかと思いますが、AIについて、慎重なニュアンスの文章も入れていただいて、不必要に心配することもないのではないかなというふうなところで心強い限りです。

私の関係する分野としては特に交通、中でも海運関係なんですけど、それに関連しても重要な内容をいろいろと盛り込んでいただいていますので、ありがたいと思います。私としてはこの計画のどこがどうということはないので、感想的になってしまっていますが、これをどうやって具体的に施策として実行していくかということが重要で、この計画の中にも随所に触れられていますが、やはり人材育成というのが重要だと思います。

どういう人材をどのように育成するかというのは、言うのは簡単でもなかなか実際には難しいことかと思えます。特に関係するところとしては、造船です。最近、造船はちょっと追い風のような気もしますけれども、気づいたら国内の造船は大分衰退していて、ここ2～30年、40年で近隣の国に先を越されてしまっているという感がどうしても否めません。それをどうするかなんですけれども、技術的に昔は結構進んでいたのが、今はもうその技能とか技術の伝承というのがかなり難しく、若い人たちになかなか昔のようなそれなりの技というのが伝わっていないのではないかという問題があるかと思えます。その辺りも、いろいろな人材はあるんでしょうけれども、どうやって育成していくかというのは実際やるのは難しいんじゃないかなという気がします。

それから、最近急に注目されていますが、ホルムズ海峡をタンカーが通れなくなったら、我が国は何日石油がもつのかなという話になってきて、そういう意味でも海運は非常に重要で、今後、海上物流を安定して動かしていくという意味で自動運航船などの技術も重要だと思います。最近、自動運航船にどういう人を乗せるべきかという議論が始まっていて、完全無人化はかなり先になるので、当面、どういう人を乗せるべきかということで議論が始まっています。結局、従来の船長と同等の資格を持った人が要るんじゃないかということなんですけれども、これは皮肉で、自動運航船が増えてきたところでどうやって船長資格を取らせるのかという議論にもなっています。

これも基本計画（案）の中で少し触れられているんですけども、IMOなりIHOとルール策定を主導していくということですが、ぜひそうしていただきたいと思えます。こ

これまでの歴史を考えたところ、IMOなりIHOではかなり苦労した経緯もあるかと思えます。最近、大きく変わろうとしている新しい電子海図ですが、一番最初の電子海図の規格はヨーロッパの国々の主導で決められてしまいまして、日本のメーカーは随意分と苦労したという経緯があります。こういう部分に関してもやはり海洋国である我が国としては本当に主導していくということをぜひ考えていただければと思います。

基本計画（案）に対する感想になりましたが、ぜひ具体的に施策として実現していくところを期待しています。以上です。

【小澤部会長】 どうもありがとうございます。それでは、オンラインの先生方、順にお願いしたいと思いますが、最初に春日先生、それから谷口先生、羽藤先生、片石先生の順にお願いしたいと思います。

春日先生、お待たせしました。お願いします。

【春日委員】 春日です。御説明ありがとうございます。

全編にわたってイノベーション・エコシステムという言葉が本当に頻繁に出てきていて、これがこれからの技術開発・発展のための鍵という認識であるということは理解できました。各分野のイノベーション・エコシステムの細かな部分についても資料を頂きましたけれども、日本のイノベーション・エコシステムを全般的に見たときの特徴や課題についての記載がどこかにありましたでしょうか。私が見逃していたら申し訳ないんですが、日本のイノベーション・エコシステムというのは成長傾向にある一方で、研究開発の収益化ですとか、人材・資金の流動性などが低いという課題もありますし、また、ずっと強化がされてきている産官学連携ももっともっと深めていかなければならないとか、ディープテックへの投資・強化は急務であるといったような課題もあると思うんです。そういった全般的な課題もどこかに書かれていたほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。

もう1点は社会受容のことなんですが、資料1で今日説明いただいた中でも人の認識や責任の重要性といったことが記載されていましたが、ここで扱われている人というのは専門人材だけじゃなくて、一般ユーザーも含まれていると思うんです。その割には、計画書の中に社会的受容ということへの言及は少ないというふうに感じたんです。様々な社会的な課題というのは技術を開発して提供するだけじゃなくて、それを社会やユーザーが理解して適正に使うということがなければ解決できないと思います。

新しい技術の中で特に一定の危険性があるもの、例えば、自動運転などもそうですが、そういったものの実装に関しては社会的受容が不可欠です。自動運転に関しても政府は社

会実装を技術開発、それから法整備を含めた環境整備、そして社会的受容性の醸成、この3つの要素を認識しながら進めているというふうに私は理解しています。社会受容について言えば、例えば、技術の有用性に関する社会の認識、ユーザーの認識、それから、技術とその使い方に関する正しい理解、適正な使用、そしてその先にある技術への信頼があって、初めて技術が社会に広く普及するというふうに思います。もしも現状、社会的受容性の醸成がとても容易にできる状況であったり、十分に醸成されているという状況であったりすれば、問題ないんですけれども、そういう状況であるとはいえません。例えば、自動運転に関しても、社会的受容が不十分であるためにいろいろな問題が起こっているんです。ですので、今回、この様々な技術を扱う中でも社会的受容性、社会的受容性の醸成、といったことに関しても検討していただきたいなというふうに感じました。

以上です。

【小澤部会長】 ありがとうございます。続けて何人か御意見を頂いた後に事務局の対応を少しお考えいただければと思いますが。

次に、谷口先生、お願いします。

【谷口委員】 御説明、どうもありがとうございました。先回までの委員会で頂いた委員の方からのコメントを反映していただいて、深みとか厚みの増した計画に仕上げていただいたことを本当に感謝申し上げます。私としては内容に異論はございません。

PR資料を作成するとのことで、これもすばらしい取組と思います。これはPRという意味で専門にちょっと近いので、少しだけ改善案を提案させてください。まず、自治体や民間企業の方に読んでもらうことを想定されているということで、できれば、想定されている読者の知り合いが多分、皆さんにおられると思うんですけれども、そういう方々に忌憚のない御意見を頂くということが大事なんじゃないかと思います。簡単に言うと、国土交通省に忖度しない方に御意見を頂くというのが大事だと思います。イラストとか短いテキストでまとめられていて、ここのこういうのもすごく大事だと思うんですけれども、一部日本語として分かりづらいところもあるので、例えば、コピーライターさんに見ていただくとかしたほうがいいんじゃないかと思います。例えば、資料3の2ページ目の下のほうの社会の変化を捉えた技術革新を生み出すイノベーション・エコシステムによる好循環を確立し、持続可能でみたいなことがあるんですけれども、最初の20、この1行目ですね、これは恐らくイノベーション・エコシステムを修飾している言葉だと思うんですけれども、だとしたら何の好循環を確立するのかが分からないんです。イノベーション・エコ

システムによる何の好循環をというところが抜けていて、そういう細かいところ、いろいろ、読み出すと、ちょっと、ん？と思うところがあるので、注意したほうがいいと思いました。それから、4ページの3本の矢、矢じゃなくて3本の柱ですね、それぞれについてスライド1枚ずつ、5枚目から7枚目に掲載していただいているんだと思うんですけれども、そういう構造が一見して分かりづらいと思うんです。その後の事例ももしかしたら3本の柱のどこに当たるのか、個別にあるのかもしれないと、それも分かるようにしたほうがいいと思いました。もしかすると、個別の事例は3本の柱ではなくて、複数の柱、個別の柱、1本1本ではなくて複数の柱にまたがるところもあるのかもしれない、その辺も構造として分かりやすくしたほうがいいと思います。

最後に、感嘆符、びっくりマークがちょっと見出しに多いのが気になっていて、6ページから8ページの見出しに2つずつあったりするので、これ、強調にはなるし、思いは伝わるとは思うんですけれども、あまり多く使いすぎると、圧迫感が増すので、例えば、3ページの表題のイノベーション・エコシステムのこのびっくりマークは、びっくりマークよりももしかしたらクエスチョンマークのほうが、これは、のほうがいいのか、なんかそういったことをぜひ御検討いただければと思いました。

以上です。

【小澤部会長】 ありがとうございます。PRのところはなかなか御意見頂けないので、貴重な御意見、ありがとうございます。

それでは、もう1人、お願いしたいと思いますが、羽藤先生、お願いします。

【羽藤委員】 どうも御説明いただきましてありがとうございます。

今し方、C l a u dというAIを使って論文が1時間で1本書けるかというのをちょっとやっていたんですけれども、書けそうなところまで来て、もうすごいびっくりしていて、今日の話でもかなりAIに中心絞って、非常にいい試みじゃないかなと感じました。AI時代にはその速さこそが命題とか、中途半端な専門性が淘汰されるとか、データ試験といったような指摘を、やっぱり公共事業にきっちり当てはめていくことで、国土交通省の分野の人材、意思決定プロセス、そしてデータの扱いそのものが大きな転換点にあるんだろうと思っています。

もう少し具体的に言うと、例えば、現在の発注業務とか、設計調査業務の多くは、恐らくその国土交通省の中では仕様書作成とか積算とか図面チェック、今回もそうですけれども、会議資料の整備などに多くの時間を費やしていますが、これらは既にAIで大幅に効

率化できる領域ですし、であるにもかかわらず、人手の長時間労働で処理し続ける体制のままでは技術者本来の設計判断や構想に時間を使えず、仕事への誇りという言い方をこの資料の中ではされていたんですけども、現実には現状がそうしたものを持ちにくい状況にある。A Iで代替可能な作業が残業で支えられているという勤務形態の構造は技術者そのものを疲弊させ、若い世代の転職が後を絶たない要因になっていて、これを今、国土交通省で潰せていないのではないかとこのことを危惧しています。

こうした状況を変えるためにぜひA Iを単なるツールとして導入するのではなくて、業務プロセスそのものを再設計するという観点で発注図書の作成から積算、証左、議事録整理など、A Iエージェントに任せて、人間は本来の問題設計、設計思想、地域調整、リスク判断といった技術判断に集中する体制への転換をぜひしていただきたいというふうに思いました。

さらに冒頭、技監のほうからも高市内閣が掲げる新産業育成、イノベーションといった言葉がありましたけれども、こうしたものをイノベーション・エコシステムとして横展開、展開していくのであれば、やはり地域ごとにクラスターを形成、具体的にしていく、そういう設計まで踏み込んだことをお考えいただきたいと思います。例えば、今、国土交通省さんでは北九州下関道路のような広域的なプロジェクトを考えておられるようですけども、こうした大規模なプロジェクトがあるのであれば、それと重ね合わせてインフラの維持管理とか、データ基盤、A I活用技術を集積させた地域クラスター、地域クラスターのエコシステム、そういうものを大学・企業・自治体と連携したエコシステムを実際に構築していくという、そういう実プロジェクトにぜひ展開していただけないかなということも思った次第です。

ぜひ若い技術者が誇りを持って働ける分野として再生していく手だての一つとしてお考えいただけないかと思いました。

以上です。

【小澤部会長】 羽藤先生、ありがとうございました。3先生からいずれも重要な御指摘を頂けたかなというふうに思いますが、ございますか。

【大儀分析官】 冒頭の春日委員からの御指摘についてでございますが、まず、これまでの計画でイノベーション・エコシステムを回していく上での課題について計画に十分に書かれていないのではないかとこの御指摘がございました。

計画案の17ページからのところは、これまでの技術政策における課題という形でまと

めさせていただいているところですが、先ほどの春日委員からの御指摘のように今書かれている内容で十分かどうかについては再度確認させていただければと思います。

あと、社会的受容性のお話がありました。キーワードとしては23ページの2行目のところに社会的受容性について、こういったことを考えながら取り組んでいかなくちやいけないんだと述べさせていただいておりますのと、41ページになりますが、表のところですが、人材という形で書かせていただいておりますが、実装のところの業務は、一番右側のところに社会的受容性も高めると書かせていただいております。こちらにつきましても先ほどの御指摘を考えたときに、十分かどうかを再度確認させていただきたいと考えます。

【春日委員】 できれば、もう少し深めていただきたいと思います。

【大儀分析官】 検討させていただきます。ありがとうございます。

【春日委員】 ありがとうございます。

【小澤部会長】 ほかはよろしいですか。ありがとうございます。

それでは、続けて片石先生、お願いします。

【片石委員】 片石です。

今回、技術の基本計画が策定されて、今後、この計画を具体的に進めていく際には、新技術の採用する、目標を決めて進めていく必要があると思います。例えば、これまでだと、新技術を活用したモデル事業を実施するとかといったことが行政の方法としてはよくあるパターンだと思いますが、それをもう少し具体的に、もう少し現場に採用しやすいような形で、例えば、新技術の採用の割合を幾らに決めると。維持管理・点検業務においてデジタル技術の活用を何%にするとか、インフラの点検においてAIの診断導入何%にするとか、そのように具体的な目標設定をして進めていくのがよろしいのではないかなと思います。

今後、今計画が定められた、これから定められるばかりなので、その後の具体的な進め方というのは来年度以降検討されるのではないかと思いますけれども、ぜひそういった目標設定というところにも考えながら進めていただければと思います。

以上です。

【小澤部会長】 ありがとうございます。続きまして滝沢先生、お願いします。

【滝沢委員】 御指名、ありがとうございます。

改定していただいた、修正していただいた資料を拝見しましたけれども、内容的には非常に重要な点が網羅されていて、しっかりとしたものになっているという感想を持ちまし

た。その上で、一点御意見というか、感想かもしれませんけれども、申し上げたいと思います。

改定版の11ページになると思いますが、大きな2の(1)の3です。社会実装に向けた制度の整備や理解の醸成についてという項目があります。片括弧の3です。これも重要なところだと思うんですが、細かい点でいうと、ここは制度の整備と書いてあるんですが、資料の3の6枚目を見ると、国土交通省は、率先して新技術を導入しながら既存の基準を見直すと書いてあって、ここは既存の基準を見直す。先ほどは制度の整備をするというふうに書かれていて、これはそもそも両者が違うことを言っているのか、制度の整備だと、今までないものを新たに整備するということですが、6ページだと、既存の技術に新技術導入に課題があるから、それを見直しますというふうに読み取れるんですが、ここがそごがないようにというのか、しっかりと同じことを表すような形にどちらかを修正していただく必要があるのかなと感じました。そもそも違うことを言っているんだということであれば、それが分かるといいかなと思いました。

その上でですけども、新技術を導入するためのいろいろな課題について書かれていました。そのための対応について書かれているんですが、やはり公共事業、土木・建築の公共事業において新技術を導入しにくい理由というのは、今までの土木・建築の従来型のエコシステムといいますか、土木・建築技術を公共事業としてやるものがやはり失敗してはいけないという部分です。いわゆる民間であればリスクマネーがあって、いろいろトライして失敗したものもたくさんあるけれども、その中で成功したら、その成功したもので事業を拡大できるという期待感がありますけれども、やはり公共事業はそういった意味での失敗ができないという、確実に予算をつけたら、期待したものができなさいけないという条件の中でやっていますので、リスクがあるものがそもそも採用しにくいところが非常に大きな公共事業ならではの難しさというか、課題なんだと思います。それを大きな事業の中のごく一部であれば、衛星を使って何かを調べましようとか、そういうのができると思うんですが、事業の、その、公共事業といいますか、今の日本のインフラの最大の課題である1つは施設の老朽化の問題、それから人材がいなくなった問題を根本的にAIを含むいろいろな技術で解決していくというのか、補っていくためには小さな技術を先端技術だから入れましたというレベルではなくて、事業全体の在り方も含めて、この制度を見直していくとか、何かを変えていかない限りは、なかなか現場ではリスクがあるものは採用しにくいという状況が続くのではないのかなと思います。

その一方で、また競争性も確保しなきゃいけないとなると、先端技術を持っている者が1社しかなければ、なかなかそれを率先して採用することができないということで、公共事業である日本のインフラの整備の仕方全体においていかにして、リスクがあるといえますか、失敗するかもしれないという意味でのリスクがあるかもしれないようなスタートアップとの協業も含めて、そういったものが許容されるというか、認められるようなものをどうしていくのかということ、ここに書いてあるのかもしれませんが、国土交通省率先して新技術を導入しながらというところで国が率先してリスクテイクをしているいろいろな技術を実証しますという趣旨だと思うんですが、それをいかに地方公共団体も含めて、普及させられるような仕組み、制度をこれから変えていくのか、あるいは整備していくのかというところがこれから5年間かけていかに新技術が開発され、普及していくかというところの一番の肝になるところじゃないかと思っておりますので、これはこの後のことかもしれませんが、ぜひその辺、しっかりお願いしたいと思います。

以上です。

【小澤部会長】 どうもありがとうございます。

それでは、続きまして、村山先生、お願いします。

【村山委員】 御指名ありがとうございます。基本計画の取りまとめ、大変ありがとうございます。

私からPR資料を見ながらちょっと細かいことで申し訳ないんですが、3ページのところで大学とあるんですけども、この書き方でもいいとは思いますが、大学校とか高専とか、工業高校とか、やはりこのイノベーション・エコシステムで、この中に組み込まれてほしい教育機関というのも大学以外にもあるのかなと思いましたが、大学等とか、大学等教育機関という書き方もあるのかなと思いましたが。この辺は計画書のほうも気をつけて書かれているところもあるとは思いますが、何か統一という意識されてもいいのかなと思いましたが。

あともう一つ、6ページですけども、やっぱりこれは非常に期待したいというか、こういうことがうまく回って、この計画が出た後に評価とか、次の計画のところを考えていく段階でいろいろなロールモデルが出てきているといいなと思っております。ここ、非常に期待したいなと思っております。今からではなかなか計画のほう、直すのは大変だと思うのですが、一つちょっと感想というか、これを見て思っているのは、やっぱり個別の課題に対して何か有効な技術というのをみつけて導入していく、実装していくというのは、

これは比較的やりやすいと思うんですけども、より根本的な大きい問題に対して何か一つの技術が対応するとか、そういうリニアな関係にないような問題ってあるはずで、そういったものというのはどうやって取り組むかって、一つはシステムということで、技術が組み合わさったもので対応していくというような考え方もあるとは思いますが、個別の問題に対して新技術という、そういう対応関係でここを考えるだけでなく、もう少し広い観点でこういったことが起こるといいなというふうに感想として持ちました。

私からは以上です。

【小澤部会長】 どうもありがとうございます。一通り御意見を頂いたところですが、大沢先生からこれはチャットに書き込みをいただいているところですが。

【大沢委員】 取りまとめ、ありがとうございます。内容につきましては皆様の御意見を踏まえて、適宜いい計画になっているんじゃないかなというふうに思っております。

私からは2点ございまして、1点目は今回、自治体にも横展開するということは非常にいいと思っているんですが、一方で水道とか、下水道の世界とか、ほかの分野においては企業体とか、それから広域組合というところにも多くの技術者の方々がいて、水道や下水道なり、インフラを支えてくださっていますので、そういう方たちにも今回の計画書が展開できるといいんじゃないかなというふうに思っております。

それから、もう1点目は人材の育成ということがあったんですが、やはりインフラ・マネジメントを行う上で、どのくらい技術者が必要なのかということをおあらかじめ考えた上で、そういった人材の確保、人材育成と同時に人材の確保をどうあるべきかということも今後考えていくべきではないかなというふうに考えております。

以上です。

【小澤部会長】 ありがとうございます。ほかの先生方はよろしいでしょうか。時間は若干ございますが、2巡目でもし御意見のある方いらっしゃれば、お受けしたいと思っております。

よろしいでしょうか。

技術基本計画案に対する御意見、それからPRの資料に対する御意見、それから今後の進め方、このフォローアップの中でこういうことを考えてほしいという御意見……、松尾先生、お願いします。

【松尾委員】 私、特段強い意見というものはありませんで、大変よい計画ができていますと思っております。その中でもかなり幅広いものということと、今度、新たな技術

といえますか、知見が必要なことを率先して取り組みというようなことが数多く含まれておりますので、やはりここでは人材をきちんと確保した上で、また、職員の方も含めて、それと地方の方、公共団体の方とかへの横展開も含めまして、人を育てながら確実に実施するというのが必要かと思いました。内容としては問題ございません。それを確実な実施ということについて、今後進めていただければと思います。

以上です。

【小澤部会長】 ありがとうございます。続いて、伊藤先生、お願いします。

【伊藤委員】 伊藤です。

計画としては非常に網羅的でよい計画になっているかと思っております。ありがとうございます。

それで、PRについて申し上げようと思っていたことは、エクスクラメーションマーク多過ぎ問題とかも含めて、ほとんど谷口先生がおっしゃってくださったのですが、少しそれに加えて。このPRのパンフレットを誰に読んでもらって、どういう行動変容につなげていきたいのかということ、このパンフレットの届け方をイメージしたほうがいいかなと思いました。自治体や民間企業というのはおっしゃっていたんですけども、いろいろ業界団体であるとか、先ほど来出てきている地域クラスターのプロジェクトとか、広域組合とか、いろいろなところがあるんじゃないかというお話がある中で、そういう届いた人たちが第一歩をどうやって踏み出せばいいか、そのきっかけがイメージできるような、つまり、この計画がどうやって自分ごとになっていくかというところの接点になり得ると思うので、そういうところを少しイメージしながら、もう少し改善していけると、非常に充実した計画を実効性を持たせるものになるような、そういう接点のパンフレットになるかなと思いましたので、もう少し御検討いただく余地があれば、御検討いただければと思います。

【小澤部会長】 どうもありがとうございます。ほか、よろしいでしょうか。

一通り御意見を頂けたようでございます。それでは、今のこの基本計画そのもの、それからこのPRの資料を今後どうやってファイナライズするかという話と、それから来年度も含めて今後の進め方をどういうふうに進めていくかというお話、両方の御意見を頂いていたかと思えますけれども、事務局からお話しただけのところがございますら、お願いしたいと思います。

【大儀分析官】 この後、資料4で技術部会の今後の進め方の中でも同様のご説明をさ

せていただくので、そちらも含めながら……。

【小澤部会長】 では、そちらで御説明ください。お願いします。

【大儀分析官】 それでは、資料4を御覧ください。2ページ目はこれまであらかじめお示ししているスケジュールでございますが、今回、40回の部会での御意見を踏まえまして、部会長とも御相談の上、必要な修正を行いまして、新たな技術基本計画ということで後日、公表させていただければと考えてございます。

3ページを御覧ください。今後、本計画の目標であるイノベーション・エコシステムを確立して機能させていくためには、その概念について各主体が理解を深めて、それぞれの役割を果たしていくということが重要になるかと考えております。このため、イノベーション・エコシステムの認知拡大に取り組むということとともに、実現する技術の研究開発、また社会実装の進捗状況につきまして、5つの『目指す社会』に資する分野別の技術政策の進捗状況、これとイノベーション・エコシステムの機能としての横断的技術政策の2つの観点から技術部会でフォローを頂きまして、好事例の横展開であるとか、課題解決方針の明確化を図ってまいりたいと考えております。

4ページを御覧ください。次期計画期間内におけるスケジュールでございますが、令和8年度から令和11年度にかけて年度の前半では、5つの『目指す社会』の姿をテーマに有識者のプレゼンであるとか、国交省の取組を御説明させていただきまして、これを基に御議論いただくことを考えております。

特にAIの活用ということにつきましては、前回の部会でも委員の皆様方から様々な御意見を頂戴したところでございますので、令和8年度の第2四半期をめぐりに41回の部会の開催を予定させていただければと考えております。また、年度の後半では、横断的技術政策の取組を御説明いたしまして、これと年度前半の御審議も踏まえましてイノベーション・エコシステムの発展について御議論いただくことを考えているところです。

今後の進め方についての御説明は以上でございます。

【小澤部会長】 御説明、ありがとうございました。

今のこの基本計画とPRの資料については最終的には期限に間に合うように取りまとめについては事務局、それから部会長にできれば一任をしていただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【小澤部会長】 よろしいですか。ありがとうございます。

それから来年度以降の議論の進め方について御提案をいただいているところですが、年度の中で前半のほうでは各分野別の、特に1回目についてはAIを中心に議論したいということ、それから年度の後半ではイノベーション・エコシステムの中で3本の柱ということで技術開発を加速する話、それから社会実装する話、それから人材の話、3本の柱がございましたが、これらについての議論をお願いしたいということで御提案をいただいているところです。

こちらにつきまして御質問、御意見ございましたら、お受けしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。オンラインの方もいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

特段御意見がないようですので、このような方針で来年度以降進めさせていただければと思います。このフォローアップの来年度以降の進め方についても本日御意見を幾つか頂いてございますので、それを参考にさせていただければと思います。

それでは、予定していた議事は以上でございますが、全体を通して先生方から何かございますか。

【永谷委員】 すみません。1つだけ。

【小澤部会長】 どうぞ。

【永谷委員】 イノベーション・エコシステムの絵は、資料の中のどこかに出てくるものなのですか。この基本計画案のところに出てくるものなののでしょうか。パンフレットになったら、雰囲気が変わったな、と思ったので。また、イノベーション・エコシステム概念図について、前に見せていただいたときに、いろいろ議論した覚えがあったので。

【大儀分析官】 参考資料で載せさせていただいている図が今画面に出ています。今、この基本計画の案からは抜けてしまっているんですが、計画の中につけさせていただくことを事務局では考えているところです。

【永谷委員】 よかった。

【大儀分析官】 一方で、パンフレットは、一般の方々にということなので、ちょっとイメージが分かりやすくなるような形で入れさせていただいています。

【永谷委員】 分かりました。

【大儀分析官】 パンフレットの図はちょっと情報量を落とした形でポイントだけにさせていただいています。

【永谷委員】 参考資料の絵がどこかに入っていれば、それで良いと思います。ありが

とうございます。大丈夫です。

【大儀分析官】 抜けていて申し訳ございません。

【小澤部会長】 この参考資料の中で本文に入るのはその絵だけですか。

【大儀分析官】 この絵だけを考えていたところです。

【小澤部会長】 なるほど。それ以外の絵は。

【大儀分析官】 それ以外の絵につきましては、この部会で御議論いただくときに、基本計画の内容のエッセンスを分かりやすく図表化したものです。これで議論いただいたということですが、イノベーション・エコシステムについては皆様方からも御意見を頂きながらつくり上げた定義でございますので、かつ、この計画の肝になるものですので、基本計画のほうに載せさせていただければと考えております。

【小澤部会長】 その計画の概要というものもひょっとしたらあってもいいのかなと思っただけですけれども。

【大儀分析官】 発表のときには、こちらは……。

【小澤部会長】 本文ですね。

【大儀分析官】 計画本文とこちらの図と一緒に載せさせていただきます。参考資料ということで、この一式を計画の概要版という形で。

【小澤部会長】 これも一緒に。

【大儀分析官】 一緒に発表させていただくというような形。

【小澤部会長】 ああ、そうなんで。はい。

【大儀分析官】 そのように考えてございます。

【小澤部会長】 分かりました。

羽藤先生、何かございますか。

【羽藤委員】 私も今出していただいていたイノベーション・エコシステムの概念図のところではすけれども、これ、1期目というか、これでまず一段階作ったということでは非常にいいと思っていますけれども、やはりどうしても総花的な印象がありますが、エコという言葉が入っているということの中には、やはり人材育成と確保というところが相当に強調される場所だと思っています。その場合に大学研究機関というふうに書いていただくのはいいんですけれども、高校とか高専、この話は再三再四ほかの先生方からも出ていましたけれども、やはりそうしたところの学生さんとか生徒さんがこのイノベーションというもの、社会基盤のイノベーションというものに関心を持っていただいて、人材と

して育て加わっていただくというところ、さらにそういう方々も含めてエッセンシャルワーカーというところが現場でこのイノベーションの担い手として非常に重要な才を果たしますので、もう少しほかの業界とは違う建設業界ならではのイノベーション・エコシステムの書き方については御検討いただきたいと思いましたが、現実にはそのAIの基盤がアメリカの企業に独占されている状況の中で、何がそのAI時代のイノベーション・エコシステムなのかと言うと、やはりデータ基盤だけは日本の中でどのように蓄積していくのか、どう守っていくのか、そういったところがエコシステムという意味では非常に重要だと思っておりますので、この辺りも少し意識していただきながら、この図のさらなるブラッシュアップをお願いできればと思った次第です。

以上です。

【小澤部会長】 ありがとうございます。

【小林委員】 今のお話にも関連するのですが、これが世に出たときにQ&Aみたいな話にもなるのかもしれませんが、このイノベーション・エコシステムは個別の分野ごとにできるイメージなのか、今回の国土交通省の中の分野で一つしかないのか、そういうイメージってあまりこれまで議論していなかったと思うんですけども、多分来年度以降、もっと具体的にするときにはそういう話になってくるのかなとは思いますが、というのは、それぞれプレーヤーも違いますし、分野ごとにエコシステムができるというイメージかどうかみたいところはまだこれから検討だということなのか。もし、例えば、そういう質問が来たときにどういうイメージなのかなというのをちょっと思ったのですが。

【小澤部会長】 いかがですか。

【大儀分析官】 先生おっしゃるように、多分、一つのエコシステムだけではなくて、いろいろな分野で、それぞれの関係者が集まってエコシステムを形成していくということではないかなと思っております。また、先ほど地方版というお話もありましたが、地方でそれぞれ関係者が集まって、エコシステムを形成していくということも考えられるのではないかと思います。年度が明けて、この計画を回していく中でエコシステムをどう形成していくのか、先生方からの御意見、もしくは、現場での取組も御紹介させていただきながら、議論を深めていければと思います。

【小林委員】 ありがとうございます。

【小澤部会長】 ほかにはいかがでしょう。

よろしゅうございますか。オンラインで参加の皆様も特段ございませんか。

ないようでしたら、本日予定していた議事は以上でございます。

事務局へお返ししたいと思います。

【阿部室長】 小澤部会長、どうもありがとうございました。

それでは、本省側から何か発言等ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日の議事閉会に当たりまして、大臣官房技術総括審議官の中村より御挨拶を申し上げます。中村技術総括審議官、どうぞよろしくお願ひいたします。

【中村技術総括審議官】 技術包括審議官の中村でございます。委員の皆様方、特に小澤先生におかれましては、部会以外の場での御示唆も含め長期にわたってご議論にご参画いただき、活発な御議論をおまとめいただいたということで本当にありがとうございました。改めて御礼を申し上げます。

皆様の活発な御議論やパブリックコメント、これらの結果によりましていろいろな手続をしっかりとった上で、新たな技術基本計画が策定されるという運びになりました。技術基本計画のあるべき姿と申しますのは、国土交通省の類似政策に関しまして汎用性が高く、適用範囲が広い方向性をしっかりと定めて、行政、各関連業界など、関係者が取るべきアクションをまとめるものだというふうに理解をしております。

今回、業界へのヒアリング等を通じて社会のニーズを捉え直し、皆様への御議論をいただきながら、しっかりとした柱立ての下で議論が収束してきたなというふうに思っている次第でございます。今後は高市内閣の方針としまして成長のスイッチを押しまくるといようなお話でございますとか、そういったものもございますので、こういった政府全体の方針に従いながら、やっていきたいというふうに思っております。

どうぞ今後とも引き続き御指導、御鞭撻賜ればと思います。

本日はどうも誠にありがとうございました。

【阿部室長】 ありがとうございました。

最後に、本日の議事録につきましては、後日、委員の皆様にご確認いただいた上で、国土交通省のホームページにて公開させていただきます。また、本日頂いた御意見は今後の検討の参考にさせていただきたいと存じます。

以上をもちまして、第40回技術部会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

— 了 —